

4 拍語を後部成素とする複合語の連濁について

鈴木 豊*

〔キーワード〕 多拍語の連濁非連濁規則語種右枝別れ語構造ライマンの法則

〔要旨〕 4 拍以上の多拍語を後部成素とする複合語には例外的に連濁する語が存在する。これらの連濁語を『日本国語大辞典第2版』（以下『日国』と略称する）を資料として網羅的に抽出し、語種・品詞等によって分類し、非連濁形をとるのが一般的な条件下においても連濁形をとる理由について考察した。その結果以下のような結論を得た。

- (1) 5 拍語・6 拍語の連濁語はごく少数の形容詞等に限られる。
- (2) 4 拍語の連濁数は1～3 拍語と比較して圧倒的に少数であるものの、『日国』では延べ1328 語の連濁語を収載する。
- (3) 4 拍語では右枝条件を満たさない（つまり右枝分かれの語構造をもつ）連濁語が64 語存在する。
- (4) 4 拍語では漢語の連濁語が67 語存在する。
- (5) 4 拍語の連濁語は総じて「馴染み度」の高い語である。
- (6) 『日国』見出し語の語境界表示（ハイフン＝「 - 」）によるとライマンの法則の違例となる語が8 語あるが、それらは本来の語境界を誤ることによって生じた「見せかけの違例」であると考えられる。

なお、『日国』は現代語と古語のいずれをも収録していること、一般にはあまり使用されない専門用語も収録していること、見出し語の清濁にはおおよその統一が図れていることなど、今後の『日国』見出し語データによる研究に当たってはより詳細な検討が必要であることはいうまでもない。

1. はじめに

4 拍以上の多拍語を後部成素とする複合語には例外的に連濁する語が存在する。これらの連濁語は実際にどのような語であるのか、そしてそれらの語はなぜ大多数の語が非連濁形をとるにもかかわらず連濁するのだろうか。小論では『日本国語大辞典第2版』（以下『日国』と略

* 教授／日本語学

称する)の見出し語の中から4拍以上の多拍語を後部成素とする連濁語のすべてを抽出し、それらを資料として品詞・語種・語構造の面から分析し考察を行う。

2. 目的と方法

小論の目的は、先行研究において考察の対象となることが稀である4拍以上の多拍語を後部成素とする複合語の連濁の実体を把握することにある。経験的に、あるいは先行研究から、後部成素の拍数が4拍以上の語は連濁率が低くなることが予測される。その一方で後部成素4拍語には連濁する語もある程度存する。これらの連濁語がなぜ連濁するのかについて明らかにしたい。4拍以上の多拍語を後部成素とする複合語を収録する資料のうち『日国』が研究対象としてもっとも適当であると考え。それは国語辞書として幅広くかつ特定分野に偏らない語彙を収録していること、4拍以上の多拍語を後部成素とする複合語を他の辞書よりも多数収録すること、用例があげられていることを理由とする。なお、小論では見出し語の性質についての検討は行わず、仮に均質な資料として扱うことにする。

この研究で使用するデータは以下の手順で作成した。まずJapanKnowledge (<http://www.japanknowledge.com/>) 所載の電子化された『日国』データから詳細検索機能を利用して語中に濁音を含む語を抽出した。『日国』の検索機能には1回に表示されるデータの件数に関して上限が設定されているので、具体的な検索作業は「あ」で始まり「が」を含む語を検索(1,570件)、次に「あ」で始まり「ぎ」を含む語を検索という方法で「わ」で始まり「ぼ」を含む語までをすべて検索した。その結果得られた228,384語から重複するデータを除くと193,359語となる。そこから『日国』見出し語のハイフン「-」(形態素境界表示)直後が濁音で始まる語をさらに抽出した。その中から後部成素が4拍以上の語について連濁形をとる1353語を今回の研究対象とした。

3. 多拍語(6・5・4拍語)を後部成素とする連濁語一覧

上記の方法によって『日国』から抽出された連濁語を後部成素ごとにとりまとめて表1とした。

表1 多拍語(6・5・4拍語)を後部成素とする連濁語一覧

〈凡例〉

- (1) 『日本国語大辞典第2版』で濁音を含む見出し語リスト(別途作成済)から抽出した。
- (2) 接尾語「がたない」・「がましい」・「がわしい」・「ぼったい」・「ぼっちい」、名前の構成要素となる「ごえもん(左右衛門)」は以下のリストから除いた。
- (3) 連濁形のある後部成素(ゴシック体で表示)を五十音順に配列した。

- (4) 各後部成素ごとにその複合語の前部成素を五十音順に配列した。
 (5) 複合語の境界「 - 」, 語幹と活用語尾の境界「・」は『日本国語大辞典第2版』に従った。
 (6) 後部成素および前部成素の漢字表記は『日本国語大辞典第2版』に従った。

☆6拍語

ぼうこうにん【奉公人】いろ - (色)
 ぎたならし・い【汚】こ - (小)

☆5拍語

がさじるし【笠標】こ - (小)
 がねもうけ【金儲】おお - (大)
 ぐさらかし【腐】たて - (建)もち - (持)
 ぐるわし・い【狂】こころ - (心)もの - (物)
 ぐるおし・い【狂】こころ - (心)もの - (物)
 ごこましい【一】て - (手)
 じおらし・い【一】こ - (一)
 ぜわしな・い【忙】き - (気)こ - (小)
 づかま・える【掴】ふん - (一)
 づかわし・い【遣】き - (気)
 づまもよう【褻模様】えど - (江戸)
 ばかりごと【謀】かん - (神)
 ばしっこい【一】しら - (白)しろ - (白)
 ばしっこ・い【敏】す - (一)め - (目)
 ばたらかし【働】き - (気)み - (身)
 ぼうしょがみ【奉書紙】いろ - (色)

☆4拍語

がいちょう【開帳】い - (居)で - (出)ひ
 - (日)ふな - (船)よ - (夜)
 がいもの【買物】こ - (小)
 がおよせ【顔寄】で - (出)
 がきいろ【柿色】うす - (薄)

がきつけ【書付】はこ - (箱)
 がく・れる【隠】こ - (小)こ - (木)
 がけもの【掛物】こ - (小)
 がさがけ【笠懸】お - (小)
 がしこ・い【賢】くち - (口)こ - (小)さ
 る - (猿)ずる - (狡)せじ - (世事)せち
 - (世知)そこ - (底)よう - (一)わる - (悪)
 がたこう【形鋼・型鋼】アイ - (I)やま - (山)
 がたまり【固】わる - (悪)
 がたま・る【固】ぐじゃ - (一)すね - (拗)
 がたらい【語】とわず - (不問)もの - (物)
 がたら・う【語】もの - (物)
 がっせん【合戦】あさ - (朝)あしがる - (足
 軽)いし - (石)おお - (大)おくれ - (後)
 かいる - (蛙)かえる - (蛙)がま - (蝦)
 かわず - (蛙)さけ - (酒)しょ - (初)す
 ずめ - (雀)たこ - (風)とぶらい - (弔)
 とむらい - (弔)の - (野)はな - (花)ふ
 な - (船)ほたる - (螢)みず - (水)ゆう
 き - (結)ゆき - (雪)よ - (夜)
 がなしけ【悲】うら - (心)
 がなもの【金物】しまり - (締)しら - (白)
 しろ - (白)すかし - (透)そえ - (添)つ
 ぽ - (鈕)
 がねもち【金持】おお - (大)
 がま・える【構】こころ - (心)しゃち - (鯨)
 み - (身)き - (気)
 がみさま【山子神様】かかし - (案山子)
 がみしも【上下】こ - (小)しおたれ - (潮
 垂)しま - (縞)つぎ - (継)なが - (長)は

ん - (半) みず - (水) やく - (役) あさ - (麻)
 きぬ - (絹) がみそり【剃刀】はや - (早)
 がみなり【雷】じ - (地) ひ - (火) ひとつ
 - (一) ふゆ - (冬) みず - (水) いこま - (生
 駒)
 がみゆい【髪結】まわり - (回)
 がやつり【蚊帳釣】あぜ - (畔) いが - (毬)
 おお - (大) かみ - (紙) くぐ - (一) こ -
 (小) たま - (玉) ひな - (雛) ひんじ - (品字)
 みず - (水) みつぼし - (三星) あお - (青)
 がらうす【唐臼】かね - (金) じ - (地) だ
 い - (台)
 がらかい【一】くち - (口) で - (出)
 がらかさ【傘】こ - (小) しゅうく - (秀) しゅ
 - (朱) ひ - (日)
 がらかす【一】ふん - (踏)
 がらくり【絡繰】はい - (蠅)
 がりまた【雁股】こ - (小) す - (素)
 がりやす【刈安】いわ - (岩) ちょうせん -
 (朝鮮) の - (野) ひめ - (姫)
 がるかや【刈萱】お - (雄) おきなわ - (沖繩)
 の - (野) ひめ - (姫) め - (雌)
 がろうと【唐櫃】こめ - (米)
 がわらけ【土器】かさね - (重) つち - (土)
 てつ - (鉄) みつ - (三) もみじ - (紅)
 がんしょう【甘松】の - (野)
 かんとう【敢当】いし - (石) せき - (石)
 ぎたない【汚】いじり - (一) うしろ - (後)
 うす - (薄) うそ - (薄) くち - (口) こ -
 (小) しんぼう - (辛) だし - (出) はなれ -
 (離) はらい - (払) はら - (腹) ほろ - (一)
 りんじゅ - (臨終) りんじゅう - (臨終) り
 んね - (輪)
 ぎつつけ【切付】なか - (中)
 ぎもいり【肝煎】おお - (大)

きらめき【一】はじめ = (一) はつか - (二十
 日)
 ぎりまい【切米】こ - (小) ふゆ - (冬)
 ぎりもの【着物】ゆ - (湯)
 ぎるもの【着物】しょうがつ - (正月) そめ
 - (染) もめん - (木綿) かし - (貸) かり
 - (借)
 ぎんたま【辜丸・金玉】にぎり - (握)
 ぎんちゃく【巾着】いそ - (磯) いんろう -
 (印籠) おとし - (落) がま - (蝦蟇) け - (毛)
 こし - (腰) すな - (砂) はな - (花) ふる
 - (古) まえ - (前) まめ - (豆)
 ぐくも・る【裏】は - (羽)
 ぐさ・れる【腐】あか - (赤) あま - (雨)
 たち - (立)
 ぐちなわ【蛇】いえ - (家) うし - (牛) う
 み - (海) え - (家) しま - (縞) しら - (一)
 ぐちまい【口米】さんじょう - (三升)
 ぐらが・る【暗】こ - (木)
 ぐらわす【食】ど - (一)
 ぐらわせ【狂】ばん - (番)
 ぐるし・い【苦】いき - (息) き - (気) き
 き - (聞) ころろ - (心) ごらん - (御覧)
 せ - (一) だい - (一) ね - (寝) み - (見)
 みみ - (耳) むし - (蒸) むな - (胸) むね
 - (胸)
 ぐるしみ【苦】おお - (大)
 ぐれない【紅】つま - (端) みな - (皆)
 ぐろばな【一】おお - (一)
 ぐわし・い【芳・香・馨】か - (芳・香・馨)
 げいせい【傾城】いき - (生) おとこ - (男)
 ねこ - (猫) はし - (端) みやこ - (都) や
 け - (焼) やねふき - (屋根葺)
 げいとう【鶏頭】あお - (青) いぬ - (犬) チャ
 ボ - (矮) つる - (蔓) にしき - (錦) の - (野)

は - (葉) ひも - (紐) やり - (槍)
 ごうしゃく【講釈】 こうもんきおさな (黄門記童幼) ざ - (座) のでん - (野天) ひる - (昼)
 ごうやく【膏藥】 あお - (青) うちまた - (内股) すい - (吸) すぎやま - (杉山) ぜに - (錢) ちらし - (散) ふたまた - (二股) またぐら - (股座) まつやに - (松脂) まつら - (松浦) みつぼし - (三星) りへえ - (利兵衛)
 ごうらい【高麗】 うす - (薄)
 ごくすう【石数】 つみ - (積)
 ごくurai【一】 とぼし - (飛) はしり - (走)
 ごけむし【苔虫】 ち - (血)
 ごしらえ【拵】 あし - (足) あま - (雨) うち - (内) えぞ - (蝦夷) おかず - (御数) おめし - (御飯) かえり - (帰) かみ - (髪) かり - (仮) きぐ - (木具) き - (木) きゅう - (急) きん - (金) ぎん - (銀) くすり - (薬) くに - (国) こころ - (心) ごせつく - (五節供) ごもつ - (御) せいよう - (西) ぜん - (膳) た - (田) たち - (太刀) だて - (伊達) ちょうにん - (町人) て - (手) てまえ - (手前) とうせい - (当世) ななところ - (七所) ななところ - (七所) なわしろ (苗代) に - (荷) にわか - (俄) ね - (根) の - (野) のち - (後) はな - (花) はま - (浜) はや - (早) はら - (腹) ふな - (船) ほ - (帆) ほそ - (細) まえ - (前) み - (身) みず - (水) みせ - (店) めし - (飯) もの - (物) よめいり - (嫁入) りょうり - (料理) れい - (礼)
 ごた・える【堪】 ふん - (踏)
 ごわいろ【声色】 かん - (寒)
 ごんにやく【蒟蒻】 いと - (糸) こごり - (凝) ごんべえ - (権) さくら - (桜) しみ - (凍)

たま - (玉) ひらの - (平) 鹿島かしま
 ざいしき【彩色】 うす - (薄) うら - (裏) おきあげ - (置上) すみ - (墨) もりあげ - (盛上)
 ざいそく【催促】 い - (居) きゅう - (急) じき - (直) たて - (立) つめ - (詰) むり - (無理)
 ざいめん【裁面】 ゆきあい - (行合)
 ざいわい【幸】 えせ - (似非) こぼれ - (零) まぎれ - (紛) まぐれ - (紛) まち - (待)
 ざかしお【酒塩】 いり - (煎) こ - (小) つめ - (詰) なが - (長) おい - (迫)
 ざぶらい【侍】 おんごく - (遠国) こせ - (悴) じ - (地) は - (端) ひ - (婢) もっそう - (物相)
 ざまし・い【覚】 め - (目)
 ざみし・い【寂】 くち - (口) ふところ - (懷)
 ざみせん【三味線】 うた - (唄) くち - (口) たて - (立) みせ - (見世)
 ざむし・い【寂・淋】 こころ - (心)
 ざむらい【侍】 あお - (青) あんごう - (鯨) いなか - (田舎) いぬ - (犬) うち - (内) うちまた - (内股) えせ - (似非) おかた - (御方) おさえ - (押) おんな - (女) かしあげ - (貸上) かす - (糟) かせ - (悴) かた - (堅) かし - (徒) かみしも - (上下) かも - (賀茂) かんげ - (勧) きゃん - (俠) きょう - (京) きんぱん - (勤番) くげ - (公家) くに - (国) げじげじ - (蚯蚓) ごう - (郷) こ - (小) こうさん - (降参) こしぬけ - (腰抜) ごしょ - (御所) こぬか - (小糠) このは - (木葉) さんびん - (三一) さんりょう - (三両) じ - (地) じげ - (地下) した - (下) しも - (下) せわ - (世話) ちか - (近) ちくしょう - (畜生) てくろ - (手暗) でも

- (一) てら - (寺) でんぶ - (田夫) と -
(外) とごま - (外様) とも - (供) なま -
(生) なりひら - (業平) にし - (西) にせ -
(賈) にわか - (俄) ねこまた - (猫股) はい
- (蠅) はえ - (蠅) はかま - (袴) は - (端)
はし - (端) ばふんつかみ - (馬糞搦) ひが
し - (東) ひご - (肥後) ひめぎみ - (姫君)
ひょうり - (表裏) ひら - (平) ひろしき -
(広敷) ふしみ - (伏見) ふちゅう - (府中)
ふな - (鮒) へこ - (兵児) へっぽこ - (一)
まいす - (売僧) まぎれ - (紛) みかわ - (三
河) みや - (宮) やしき - (屋敷) やせ - (瘦)
わか - (若) わたり - (渡)

ざやまき【鞘巻】 みぎ - (右)

ざんしょう【山椒】 あお - (青) あさくら -
(朝倉) いぬ - (犬) いわ - (岩) うきよ - (浮
世) おお - (大) おに - (鬼) からす - (烏)
すり - (搗) つけ - (漬) ときわ - (常磐)
に - (煮) ねり - (練) の - (野) はま - (浜)
ひ - (干) ふゆ - (冬) み - (実) やま - (山)
わり - (割)

ざんとう【算当】 むな - (胸)

ざんまい【三昧】 あみだ - (阿彌陀) い - (居)
いちぎょう - (一行) おに - (鬼) おんな -
(女) かいいん - (海印) かきょう - (火坑)
かしょう - (火生・火烧) かたな - (刀) か
みそり - (剃刀) きずい - (氣随) くう - (空)
くうり - (空裏) く - 6 - (句) くとう - (口
頭) げさく - (戯作) こうず - (好事) こん
ごう - (金剛) さん - (三) さんまいおう -
(三昧王) じしん - (慈心) したい - (為) じ
ゆう - (自由) しゅり - (趣理) しゅりよう
ごん - (首楞嚴) しんによ - (真如) すき -
(好) すね - (脛) ぜいたく - (贅沢) たち
- (太刀) ちょうらく - (釣楽) つえぼう - (杖

棒) どくしょ - (読書) によぼう - (女房)
ねんぶつ - (念仏) はもの - (刃物) はんじゅ
- (般舟) ひとつ - (一) ふうりゅう - (風流)
ぼう - (棒) ぼうちぎり - (棒乳切) ほうど
う - (方等) ほけ - (法華) ほっけ - (法華)
ほとけ - (仏) み - (身) むがん - (無願)
むそう - (無相) むてん - (無点) ゆうげ -
(遊戯) ゆげ - (遊戯) ゆみや - (弓矢) りしゅ
- (理趣) ろくじ - (六時) わがまま - (我儘)
ざんよう【算用】 かわ - (皮) ころも - (心)
こ - (小) そう - (総) たぬき - (狸) ちゅ
う - (宙) つばめ - (燕) つぼ - (坪) なか
ま - (仲) ねずみ - (鼠) はや - (早) まめ
- (豆) むな - (胸) むね - (胸) めのこ - (目
子) り - (利)

じいたけ【椎茸】 なま - (生)

じっかり【確】 こ - (小)

じっくい【漆喰】 なまこ - (海鼠) なんばん
- (南蛮) ねずみ - (鼠) やね - (屋根)

じっさり【退】 あと - (後)

じまわり【仕廻】 はま - (浜)

じゃっくり【猥】 なき - (泣)

じゃみせん【三味線】 あい - (相) いた - (板)
いろ - (色) うた - (唄) おお - (大) かし
- (檜) くち - (口) けいこ - (古稽) さわぎ
- (騒) たて - (立) つぎ - (継) つじ - (辻)
つれ - (連) とお - (遠) わき - (脇)

じゅうとめ【姑】 こ - (小) むら - (村) じょ
うすい【生水】 きん - (金)

じょうちゅう【焼酎】 いも - (芋) くま - (球
磨)

じょうてい【聖帝】 こんりん - (金輪)

じょうもん【証文】 あい - (合) あぶら - (油)
あやまり - (謝・誤) いき - (生) うら - (浦)
えいたい - (永代) かた - (固) こしらえ -

(拵) そえ - (添) にせ - (贗・偽) ほれ - (惚)
れい - (礼) わび - (詫)

じょうらい【精霊】 あら - (新)

じょっこり【一】 こ - (小)

じらし・い【著】 げん - (験)

じりうと【知人】 ふる - (古)

じるうと【知人】 ふる - (古)

じるし・い【著】 いち - (著) げん - (験)

ずいせん【水仙】 あやめ - (菖蒲) オランダ
- (一) き - (黄) くちべに - (口紅) しき
- (四季) しな - (支那) ジャガタラ - (一)
しょうき - (鍾馗) つばめ - (燕) なつ - (夏)
なんさん - (南京) ひおうぎ - (檜扇) やり
- (槍) ゆり - (百合) らっぱ - (喇叭) ず
いもの【吸物】 もち - (餅)

ずいりょう【推量】 あて - (当) あら - (粗)
おし - (押) はなもと - (鼻元) わる - (悪)
ずいれん【水練】 こたつ - (炬燵) ずく -
し【少】 こと - (言)

ずっぱ・い【酸】 あお - (青) あま - (甘)
にが - (苦)

ずっぱり【突張】 で - (出)

ぜきしょう【石莖】 いぬ - (犬) いわ - (岩)
うみ - (海) えぞ - (蝦夷) こうがい - (筭)
こうらい - (高麗) たち - (立) ちしま - (千
島) チャボ - (矮鶏) にわ - (庭) はな - (花)
はなび - (花火) ピロード - (一) むしとり
- (虫取)

ぜりあい【競合】 あしがる - (足軽) こ - (小)
つば - (鏢) てっぽう - (鉄砲)

ぜりもち【迫持】 ろく - (陸)

ぜわし・い【忙】 いき - (息) き - (気) こ
- (小)

ぜんさく【穿鑿】 うた - (歌) かね - (金)
こか - (古歌) そろばん - (算盤) ちから -

(力) ついえ - (費) みうけ - (身請) むこ
- (婿) や - (矢) いたり - (至)

ぞうめん【索麵】 うお - (魚) うみ - (海)
かけ - (掛) きみ - (黄身) きり - (切) く
ず - (葛) なら - (奈良) わじま - (輪島)

ぞうろう【候】 さん - (然) また - (又)

ぞこない【損】 こころえ - (心得) こと - (事)
しに - (死) でけ - (出来) まい - (舞) も
の - (物) うがち - (穿) うまれ - (生)

だいしょう【大将】 あお - (青) あしがる - (足
軽) いくさ - (軍) いろ - (色) う - (右) う
こんの (右近) うこんえの (右近衛) かおる
- (薫) がき - (餓鬼) こども - (子供) この
えの (近衛) こんえの (近衛) こんびら - (金
毘羅) さく - (作) さごろも - (狭衣) さこ
んの (左近) さこんえの (左近衛) さ - (左)
さぶらい - (侍) さむらい - (侍) じんじゃ
- (深沙) しんだら - (真達羅) そう - (総・
惣) ちゅうえの (中衛) てっぽう - (鉄砲)
のぼり - (幟) ばいら - (婆夷羅) ばさら -
(伐折羅) ばしゃら - (伐折羅) はた - (旗)
ひげくろ - の - (髭黒) ひだりの (左) ふく
- (副) ふな - (船) ほろ - (母井) ほん -
(本) みぎの (右) むしゃ - (武者) もの - (物)
やり - (槍) ゆみ - (弓) わか - (若) わき
- (脇)

だいまつ【松明】 う - (鶉) おお - (大先)
おさき - (御) さき - (先) たけ - (竹) む
かえ - (迎)

だいめん【対面】 な - (名) くび - (首)

だお・れる【倒】 ゆき - (行) かし - (貸)

だかし・い【高】 ひと - (人)

だかのは【鷹羽】 くぜ - (久世)

だくさん【沢山】 おんな - (女) き - (気)
こ - (子) こ - (小) に - (荷) ひげ - (髭)

ひと - (人) みず - (水) もり - (盛) わた
- (綿)
だしなみ【嗜】み - (身)
だすかり【助】おお - (大) き - (気) て - (手)
ひと - (人)
だたかい【戦】じ - (地) ひる - (昼) だち
うり【立売】なか - (中)
だつくり【田作】め - (一)
だてあみ【建網】そこ - (底)
だてもの【立者】おお - (大)
だねせん【種銭】すず - (錫)
だのしみ【楽】おお - (大) ところ - (心)
だましい【魂】いなか - (田舎) いれ - (入)
おとこ - (男) かお - (顔) きも - (肝) く
に - (国) ところ - (心) しぞく - (士族) じょ
うぶ - (丈夫) せけん - (世間) ぜん - (善)
そこ - (底) つら - (面) にほん - (日本)
ぬすびと - (盗人) はり - (張) ぶけ - (武家)
へらず - (不減) まけじ - (不負) まけず -
(不負) まけぬ - (不負) みくに - (御国) や
す - (安) やまと - (大和)
だまらい【溜】せい - (勢)
だめいき【溜息】おお - (大)
だれこみ【垂込】おお - (大)
だわごと【戯言】の - (野)
ぢくしょう【畜生】いき - (生) おとこ - (男)
しに - (死) ひと - (人)
ぢっちゃい【小】こ - (小)
ぢょうちん【提灯】あげ - (揚・挙) うり - (瓜)
え - (絵) おお - (大) おだわら - (小田原)
かんばん - (看板) ぎふ - (岐阜) くさり -
(鎖) こ - (小) こし - (腰) しいれ - (仕入)
しゅうぎ - (祝儀) しらはり - (白張) しろ
- (白) すいか - (西瓜) すずみ - (涼) たか
- (高) たかはり - (高張) たたみ - (畳) だ

んご - (団子) つえ - (杖) つり - (釣) て
しがわら - (勅使河原) て - (手) てなが - (手
長) てまる - (手丸) のき - (軒) はこ - (箱)
ばじょう - (馬上) ば - (馬) ばつり - (場吊)
はや - (早) ひきやく - (飛脚) ふたつ - (二)
ほおずき - (酸漿・鬼灯) ほん - (盆) まつ
り - (祭) まる - (丸・円) もん - (紋) や
く - (役) ゆみはり - (弓張) よまわり - (夜)
回るすい - (留守居)
ぢらかす【散】さん - (散)
づうよう【通用】いちぶ - (一分)
づかまえ【掴・捉】て - (手)
づかま・る【掴】ふん - (一)
づかわ・し【付】よ - (世)
づきあい【付合】あいきょう - (愛敬) いち
もん - (一門) えりもと - (襟元) かたふね
- (片船) ぎり - (義理) きんじょ - (近所)
じょう - (定) じょちゅう - (女中) しんせ
き - (親戚) しんるい - (親類) せけん - (世
間) たにん - (他人) つう - (通) となり -
(隣) ともだち - (友達) なかま - (仲間) な
がや - (長屋) ひと - (人) ほうばい - (傍輩・
朋輩) ほとけ - (仏) むら - (村)
づくしょう【畜生】いき - (生)
づくまい【蹲】さる - (猿)
づくら・う【作】こし - (腰)
づくろ・う【繕】こわ - (声) はね - (羽)
み - (身)
づくろい【繕】えもん - (衣紋) く - (句)
くち - (口) け - (毛) こ - (小) こえ - (声)
ところ - (心) こわ - (声) した - (下) は
- (羽) はね - (羽) ふん - (粉) み - (身)
づくろ・う【繕】こわ - (声) はね - (羽)
み - (身)
づけな・し【付無】どう - (一)

づっぽう【筒袍】たか - (竹) たけ - (竹)
 づまし・い【詰】き - (氣)
 づらぬ・く【貫】ふん - (一)
 づらまえ【提】て - (手)
 づわら・し【一】むな - (胸)
 でっぽう【鉄砲】いり - (入) うつ - (一)
 えのみ - (榎実) おお - (大) おき - (置)
 かぎ - (風) かぜ - (風) かみ - (紙) から
 - (空) き - (木) くうき - (空氣) けんつき
 - (剣付) こづつ - (小筒) しかけ - (仕掛)
 じ - (地) すぎ - (杉) すけ - (助) そら - (空)
 たけ - (竹) つき - (突) の - (野) ひじ -
 (肘) ふところ - (懷) ほん - (本) まめ - (豆)
 みず - (水) もや - (靄) やまぶき - (山吹)
 るす - (留守) わら - (藁)
 でならい【手習】すな - (砂) はい - (灰)
 どうろう【灯籠】あじろ - (網代) いし - (石)
 いづつ - (井筒) うり - (瓜) えんしゅう -
 (遠州) おき - (置) おくり - (送) おりかけ
 - (折掛) おりべ - (織部) かおみせ - (顔
 見世) かがり - (篝) がく - (額) かげ - (影)
 かさぎ - (笠置) かな - (金) かみ - (紙)
 からくり - (絡繰) き - (木) きりこ - (切子)
 きりぬき - (切抜) こう - (香) こしおれ - (腰
 折) さくら - (桜) さげ - (提) しな - (支那)
 すかし - (透) たまぎく - (玉菊) つじ - (辻)
 つり - (釣) でんがく - (田楽) のき - (軒)
 はか - (墓) はこび - (運) ふな - (船) ぼ
 たん - (牡丹) ぼん - (盆) まい - (舞) ま
 る - (丸) まわし - (回) まわり - (回) も
 じ - (緞) やま - (山) ゆき - (雪) ゆきみ
 - (雪見) ゆのき - (柚木) あげ - (揚)
 どしより【年寄】いけ - (一) おお - (大)
 おく - (奥) じゅうにん - (十人) すもう - (相
 撲) ちゅう - (中) まち - (町) わか - (若)

わき - (脇)
 どしよ・る【年寄】なま - (生)
 どっかい【取替・取換】す - (素)
 どっくり【徳利】いか - (烏賊) おみき - (御
 神酒) かけ - (欠) かん - (爛) こけ - 9 -
 (転) ごごう - (五合) さか - (酒) さけ - (酒)
 ちち - (乳) なんきん - (南京) びぜん - (備
 前) びんぼう - (貧乏)
 どむらい【弔】はこ - (箱) むかわり - (一)
 どらまえ【捕】て - (手)
 どりあい【取合】じ - (地) わたくし - (私)
 どりかえ【取替・取換】す - (素)
 ばからい【計】い - (居) おんな - (女)
 ばから・う【量】おも - (思)
 ばきもの【履物】わら - (藁)
 ばく・れる【一】しら - (白)
 ばしか・い【捷】て - (手)
 ばしこ・い【捷・敏】き - (氣) す - (計)
 て - (手) め - (目) ばしょおり【端折】じ
 じん - (祖父) ばし・れる【走】あか - (赤)
 ばたか・る【開】ふん - (踏)
 ばたらき【働】あら - (荒) いたのま - (板間)
 いちじ - (一時) いのり - (祈) うえた - (植
 田) かし - (河) 岸かせ - (悴) かって - (勝
 手) かりた - (刈田) き - (氣) くりや - (厨)
 こ - (小) ざい - (在) した - (下) せつく
 - (節供) だいどこ - (台所) だいどころ - (台
 所) ただ - (只) とも - (共) なか - (仲・中)
 にわ - (庭) ぬか - (糠) はだし - (跣) ま
 い - (舞) むだ - (無駄) め - (目) やき - (焼)
 よ - (夜)
 ばちか・る【開】ふん - (踏)
 ばっさい【一】おとこ - (男) おなご - (女子)
 ばったき【叩】むじな - (貉)
 ばっつけ【磔・張付】さかさ - (逆) さか -

(逆) すて - (捨) ど - (土) いた - (板)
 ばっとう【八倒・八倒】 しちてん - (七転・七顛) しってん - (七転) してん - (四転)
 ばな・れる【離】 うきよ - (浮世) ち - (乳) よ - (世)
 ばらし・い【晴】 す - (素)・すっ - (素)・すん - (素)
 ばれもの【腫物】 ゆび - (指) ばんこう【版行】 あわせ - (合)
 ばんしょう【半鐘】 きゅう - (急) すり - (擦) はや - (早)
 ばんでん【半纏】 あわせ - (袷) おいこ - (負子) かめのこ - (亀甲) かわ - (革) きり - (切) こしきり - (腰切) さしこ - (刺子) した - (下) しりきり - (尻切) しりきれ - (尻切) しるし - (印) そでなし - (袖無) つつぽ - (筒袍) なが - (長) ねじり - (捩) ねんねこ - (一) の - (野) ふたこ - (二子) ぶっさき - (打裂) むきみや - (一) わり - (割)
 びきあみ【引網・曳網】 そこ - (底)
 びすし・い【・喧】 かま - (囂)
 びた・れる【浸】 い - (居) い - (寝)
 びちら・く【一】 こえ - (肥)
 びっさり【一】 あと - (後)
 びったり【浸】 い - (居)
 びったれ【浸】 い - (居) い - (寝)
 びゃくしょう【百姓】 あずかり - (預) あぜ - (畔) あら - (荒) いちにん - (一人) いっしき - (一色) いっぱん - (一本) いもほり - (芋) 掘いり - (入) うら - (浦) おお - (大) おさ - (長) おとな - (名乙・長・老) おんでん - (隠田) かかえ - (抱) かけおち - (欠落) かじけ - (悴) かしら - (頭) かど - (門) くらいり - (蔵入) げ - (下) けほう - (家抱) ごたん - (五反) こ - (小)

こまえ - (小前) さんざい - (散在) さんだん - (三段) さんでん - (散田) した - (下) したん - (四) そう - (総・惣) ぞうめん - (雜免) たおれ - (倒) ちゅう - (中) つち - (土) つぶれ - (潰) てら - (寺) としより - (年寄) ど - (土) どみょう - (土名) どみん - (土民) どん - (一) なうけ - (名請) ひかん - (被管) ひら - (平) へ - 10 - いみん - (平民) べっさく - (別作) ほん - (本) みずいり - (水入) みずのみ - (水呑) みょう - (名) よろ - (弱) よんたん - (四反) わき - (脇)
 びやしる【冷汁】 たで - (蓼)
 びょうたん【瓢箪】 あお - (青) すみとり - (炭取) せんなり - (千成) たけ - (竹) まる - (丸)
 びょうほう【兵法】 うさぎ - (兎) こたつ - (炬燵) なま - (生)
 びらか・す【一】 みせ - (見)
 びらがね【平金】 て - (手)
 びらたい【平】 だだ - (一) よこ - (横)
 ぶうたい【風袋】 うえ - (上) うち - (内)
 ぶきだ・つ【吹立】 あら - (荒)
 ぶくちゅう【腹中】 おお - (大)
 ぶくとお【河豚】 ちん - (一)
 ぶくれる【脹・膨】 あお - (青) き - (着) しも - (霜) みず - (水) ぶつころ【懷】 て - (手)
 ぶっさ・い【塞】 き - (氣)
 ぶつちよお【太】 はら - (腹)
 ぶところ【懷】 うち - (内) おく - (奥) した - (下) そと - (外)
 ぶるまい【振舞】 あき - (秋) あたり - (当) あと - (後) いえ - (家) いちげん - (一見) うけ - (有卦) おうばん - (碗飯) おおばん - (大盤) おお - (大) おさな - (幼) おせち

- (御節) おに - (鬼) おのれ - (己) おはぐ
 ろ - (御菌黒) かいさん - (皆参) がくや -
 (楽屋) かけ - (勝) きゃく - (客) けちゃく
 - (家嫡) ごじゅう - (後住) こんれい - (婚)
 礼さいそく - (催) 促さか - (酒) ざ - (座)
 しゅうげん - (祝言) しんざん - (新参) し
 んのう - (辛労) すきや - (数寄屋) せち -
 (節) ぜっく - (絶句) せつ - (節) せん - (千)
 せんりょう - (千両) そうばん - (総番) だ
 いく - (大工) たな - (店) ちゃのゆ - (茶
 湯) ちゃ - (茶) ちょう - (町) で - (出) と
 み - (富) ながや - (長屋) にせん - (二千)
 のがけ - (野掛) はたご - (旅籠) はなみ -
 (花見) はれ - (晴) ひざなおし - (膝直) ひっ
 こし - (引越) ひと - (人) ほったい - (法体)
 まご - (孫) まち - (町) まわり - (回) み
 うけ - (身請) みずかけ - (水掛) みっか -
 (三日) めん - (免) や - (屋) よ - (夜) よ
 め - (嫁) よろこび - (喜) わたまし - (移徙)
 ぶろしき【風呂敷】あさ - (麻) おお - (大)
 こ - (小) せいとん - (整頓) て - (手) ば
 ん - (番) みの - (三幅・三布) ゆ - (湯)
 よの - (四幅・四布)
 べつつい【竈】いつつ - (五) いし - (石)
 ど - (土) ひとつ - (一) ふたつ - (二)
 ぼういん【法印】さん - (三)
 ぼう・ける【惚・呆】ふる - (古) まち - (待)
 ぼうこう【奉公】あだ - (徒) あら - (荒)
 いげし - (居消) いたずら - (徒) いっしょ
 う - (一生) いろ - (色) うい - (初) えん
 きり - (縁切) おかた - (御方) おかち - (御
 徒) おさき - (御先) おさし - (御差) おす
 え - (御末) おたな - (御店) おとぎ - (御
 伽) おまえ - (御前) おめみえ - (御目見)
 おもて - (表) おやま - (お山) おれい - (御

礼) かけ - (陰・影) かせぎ - (椽) かせ -
 (悴) かたいれ - (肩入) かけ - (徒) がてら
 - (一) かみすき - (紙漉) かよい - (通) きゅ
 うざ - (久三) くげ - (公家) げじょ - (下女)
 げす - (下種) こしもと - (腰元) ごてん -
 (御殿) こもり - (子守) さむらい - (侍) し
 きり - (仕切) しち - (質) しちもの - (質
 物) しゅっかい - (述懐) じょちゅう - (女中)
 しら - (白) すべい - (一) ただ - (只) ちゃ
 たて - (茶立) ちゃや - (茶屋) つかみ - (掴)
 つとめ - (勤) つめ - (詰) てあし - (手足)
 でい - 11 - り - (出入) てかけ - (手掛・妾)
 でし - (弟子) てだい - (手代) でっち - (丁
 稚) とぎ - (伽) ねんき - (年季) ねんきり
 - (年切) はんき - (半季) ひかげ - (日陰)
 ひとき - (季一) ひと - (人) ぶけ - (武家)
 ふそく - (不足) ふゆ - (冬) まえだれ - (前
 垂) まちあい - (待合) まち - (町) みずし
 - (水仕) みず - (水) みせ - (見) みだい
 - (御台) めかけ - (妾) めのと - (乳母) も
 のよみ - (物読) やかた - (屋形) やしき -
 (屋敷) やっこ - (奴) やりて - (遣手) よし
 ち - (与七) れい - (礼) わかとう - (若党)
 わたり - (渡)
 ぼうそう【疱瘡】あか - (赤) あく - (悪)
 いれ - (入) うえ - (植) えど - (江戸) ひ
 とつ - (一) まつかわ - (松皮) みず - (水)
 みっか - (三日)
 ぼうちょう【包丁・庖丁】あじきり - (鯔切)
 いし - (石) おかた - (御方) おやこ - (親子)
 かくし - (隠) かみたち - (紙裁) さかな -
 (魚) さしみ - (刺身) すみかき - (炭搔) た
 ち - (裁・裁) たちもの - (裁物) タバコ -
 (煙草) でば - (出刃・出歯) とうふ - (豆腐)
 なきり - (葉切) なっきり - (葉切) なまぐ

さ - (生臭) にくきり - (肉切) はっかけ - ぼっくり【一】 まつかさ - (松) まつ - (松)
 (刃欠) ぶんか - (文化) まぐろ - (鮪) まめ ぼところ【懷】 うち - (内)
 うえ - (豆植) やなぎば - (柳刃) ぼった・い【一】 はれ - (腫)
 ぼうにん【法忍】 さん - (三) ぼねおり【骨折】 いぬ - (犬) むだ - (無駄・徒)
 ぼうもん【法門】 ひじ - (秘事) くせ - (曲)
 ぼうりん【法輪】 てん - (転) これらの連濁形をとる複合語は『日国』収

録語彙全体から見るとごく一部の語である。表2は今回の調査の内訳を示したものである。網掛け部分が表1で示した連濁語の数である。4拍語以上の後部要素は非連濁傾向の強い語（濁音を含む語、複合語、漢語）が多く含まれていることから、1～3拍語の「連濁語数」については未調査であるが、4拍語の連濁語数を大きく上回することは間違いない。

表2 『日本国語大辞典第2版』中の多拍語を後部要素とする連濁語数

後部要素の 拍数	後部要素が濁 音で始まる語 の数	連濁語数	備考
1 拍	15,358	未調査	語例「にし - び」など
2 〃	60,556	未調査	語例「しぶ - がき」など
3 〃	19,975	未調査	語例「ゆき - がこい」など
4 〃	7,417	1,328	17.90 %。後部要素 229 語。「うす - がきいろ」など
5 〃	722	23	3.05 %。後部要素 16 語。「おお - がねもうけ」など
6 〃	530	2	0.38 %。後部要素 2 語。「いろ - ほうこうにん」など
7 〃	137	0	語例「いよう - でんしこうがく」など
8 〃	85	0	語例「アメリカ - どりつつかくめい」など
9 〃	32	0	語例「アルプス - ぞうざんうんどう」など
10 〃	26	0	語例「かびんせい - だいちょうしょうこうぐん」など
11 〃	13	0	語例「きんろうしゃ - ざいさんけいせいせいど」など
12 〃	9	0	語例「ぜんこく - がっこうとしょかんきょうぎかい」など
13 〃	0	0	
14 〃	1	0	語例「にほん - でんしんでんわかぶしきがいしゃ」
合計	193,359	1353	

※備考欄の7拍～12拍、14拍の語例は連濁形ではない。

戸田綾子(1988)は『日葡辞書』と『和英語林集成』について、後部要素の拍数と連濁との関係についても調査している。参考までに日葡辞書の連濁率をしめした表を表3として以下に転載する。連濁率は連濁語数を連濁可能語数で割ったものである。() 内の数字は連濁形と非連濁形の両形が見られる語数。

表3『日葡辞書』の拍数別連濁語数

(戸田綾子(1988)表5「音節数『日葡辞書』」を転載)

前項 後項	1	2	3	4	5	6	計
1	24	225	66	7			322
	14	118 (6)	47 (3)	4	183 (9)		
	58.33	53.88	74.60	57.14			58.47
2	354	1637	367	73		1	2,432
	220	843 (39)	242 (8)	59		0	1,364 (55)
	63.58	52.75	67.41	80.82		0	57.38
3	194	1,009	252	35	2		1,492
	109 (6)	287 (15)	80	18	1		495 (21)
	57.98	28.87	31.75	51.43	50		33.65
4	40	243	72	3			358
	13	21	8	0			42
	32.5	8.64	11.11	0			11.73
5	3	26	9		1		39
	0	2	0		0		2
	0	7.69	0		0		5.13
6	1	2					3
	0	0					0
	0	0					0
計	616	3,142	766	118	3	1	4,646
	356 (14)	1,271 (60)	377 (11)	81	1	0	2,086 (85)
	59.18	41.24	49.93	68.64	33.33	0	45.75

表2・表3から『日国』と『日葡辞書』における後部成素が4～6拍語の連濁語数を対比して示すと1328:42、23:2、2:0となる。『日国』と『日葡辞書』とでは収録語数が大きく異なり、また『日葡辞書』では後部成素は最長6拍語までの収載である。しかし、4拍語には一定の割合の連濁語が存するのに対して5拍語以上にはほとんど連濁語が存しないという点は共通している。

4. 連濁語の分析

4.1 馴染み度

表1に示したとおり『日国』で後部成素が4拍語以上の連濁語の中には、前部成素に多様な語が接続して数多くの複合語を形成しているものがある。それらの中から上位30位(34語)を複合語数の多い順に配列して示したのが表4である。

表 4 複合語を数多く作る後部成素

順位	語	漢字 表記	語 数	順位	語	漢字 表記	語 数	順位	語	漢字 表記	語 数
1	ほうこう	奉公	83	13	がっせん	合戦	23	24	どっくり	徳利	12
2	ざむらい	侍	78	13	ほうちょう	包丁	23	26	がやつり	蚊帳吊	11
3	ぶるまい	振舞	63	15	づきあい	付合	21	26	ぎんちゃく	巾着	11
4	ざんまい	三昧	55	15	ばんてん	半纏	21	28	がみしも	上下	10
5	びゃくしょう	百姓	53	17	ざんしょう	山椒	20	28	だくさん	沢山	10
6	ごしらえ	拵	52	18	ざんよう	算用	16	30	がしこい	賢	9
7	どうろう	灯籠	45	19	じゃみせん	三味線	15	30	げいとう	鶏頭	9
8	だいしょう	大将	43	20	ぎたない	汚	14	30	どしより	年寄	9
9	ちょうちん	提灯	42	21	じょうもん	証文	13	30	ぶろしき	風呂敷	9
10	でっぼう	鉄砲	32	21	ぐるしい	苦	13	30	ほうそう	疱疹	9
11	ばたらき	働	28	21	づくろい	繕	13				
12	だましい	魂	24	24	ごうやく	膏藥	12				

これらの語は現代語では使用頻度がそれほど高いとはいえないものが含まれているもの、おそらく近世語では頻繁に用いられていた語であると推測される。34 語のうち漢語が 19 語をしめるがいずれも「馴染み度」の高い語である(連濁の先行研究において連濁条件の一つとして「熟合度」が高いことがあげられることがあるがその意味が不明であるためここでは「馴染み度」を用いておく)。馴染み度の高い漢語とは日常慣れ親しんだ、使用頻度の高い漢語という意味である。連濁形が常態であるということから、漢語という語種の範疇を逸脱して和語化した漢語であるともいいうるだろう。

4.2 語種

表 5 は『日国』で後部成素が 4 拍以上の多拍語の連濁語の品詞別・語種別に分類してその数を示したものである。

表 5 連濁語(後部成素)の品詞・語種

品詞	語種	語構造	語数	複合語数	備 考
a. 名 詞	1. 和語	(1) 名詞 + 名詞	56 語	201 語	
		(2) 動詞連用形転成	47 語	329 語	
		(3) その他	7 語	14 語	
	2. 漢語		67 語	668 語	
b. 動 詞			32 語	54 語	
c. 形容詞			33 語	85 語	
d. その他			2 語	2 語	
合 計			245 語	1353 語	

以下に a. ～ d. に含まれる後部成素を 50 音順に配列して示す。

a-1- (1) 名詞和語 (名詞+名詞) 56 語

がいもの【買物】がおよせ【顔寄】がきいろ【柿色】がけもの【掛物】がさがけ【笠懸】がたこう【形鋼・型鋼】がなもの【金物】がねもち【金持】がみさま【山子神様】がみしも【上下】がみそり【剃刀】がみなり【雷】がみゆい【髪結】がやつり【蚊帳釣】がらうす【唐臼】がらかさ【傘】がらくり【絡繰】がりまた【雁股】がりやす【刈安】がるかや【刈萱】がろうと【唐櫃】がわらけ【土器】ぎもいり【肝煎】ぎりまい【切米】ぎりもの【着物】ぎるもの【着物】ぎんたま【鞆丸・金玉】ぐちなわ【蛇】ぐちまい【口米】ぐれない【紅】ぐろばな【-】ごけむし【苔虫】ごわいろ【声色】ざいわい【幸】ざかしお【酒塩】ざやまき【鞘巻】じいたけ【椎茸】じゅうとめ【姑】じりうと【知人】じるうと【知人】ずいもの【吸物】だかのは【鷹羽】だてあみ【建網】だてもの【立者】だねせん【種銭】だましい【魂】だめいき【溜息】だわごと【戯言】づっぱう【筒袍】でならい【手習】どしより【年寄】ばきもの【履物】ばれもの【腫物】びきあみ【引網・曳網】びやしる【冷汁】びらがね【平金】ぶろしき【風呂敷】ほねおり【骨折】〔以下5拍語〕がさじるし【笠標】がねもうけ【金儲】づまもよう【褌模様】ばかりごと【謀】

a-1- (2) 名詞和語 (動詞連用形転成) 47 語

がきつけ【書付】がたまり【固】がたらい【語】がらかい【-】ぎっつけ【切付】きらめき【-】ぐらわせ【狂】ぐるしみ【苦】ごしらえ【拵】ざぶらい【侍】ざむらい【侍】じっさり【退】じまわり【仕廻】じゃっくり【-】ずっぱり【突張】ぜりあい【競合】ぜりもち【迫持】ぞこない【損】だしなみ【嗜】だすかり【助】だたかい【戦】だちうり【立売】だつくり【田作】だのしみ【楽】だまらい【溜】だれこみ【垂込】づかまえ【掴・手捉】づきあい【付合】づくまい【蹲】づくろい【繕】づらまえ【捉】どっかい【取替・素取換】どむらい【弔】どらまえ【捕】どりあい【取合】どりかえ【取替・取換】ばかりい【計】ばしょおり【端折】ばたらき【働】ばったき【叩】ばっつけ【磔・張付】びっさり【-】びったり【浸】びったれ【浸】ぶっさ・い【塞】ぶるまい【振舞】〔以下5拍語〕ぐさらかし【腐】ばたらかし【働】

a-1- (3) 名詞和語 (その他) 7 語

どっくり【徳利】ぶくとお【河豚】ぶつころ【懷】ぶっちょお【太】ぶところ【懷】べっつい【竈】ぼっくり【-】ほところ【懷】

a-2 名詞 漢語 67 語

がいちょう【開帳】がっせん【合戦】がんしょう【甘松】かんとう【敢当】ぎんちゃく【巾着】げいせい【傾城】げいとう【鶏鶏頭】ごうしゃく【講釈】ごうやく【膏藥】ごうらい【高麗】ごくすう【石数】ごくらい【-】ごんにゃく【蒟蒻】ざいしき【彩色】ざいそく【催促】ざいめん【裁面】ざみせん【三味線】ざんしょう【山椒】ざんとう【算当】ざんまい【三昧】ざん

よう【算用】じっくい【漆喰】じゃみせん【三味線】じょうすい【生水】じょうちゅう【焼酎】
 じょうてい【輪聖帝】じょうもん【証文】じょうらい【精霊】ずいせん【水仙】ずいりょう【推
 量】ずいれん【水練】ぜきしょう【石菖】ぜんさく【穿鑿】ぞうめん【索麵】だいしょう【大
 将】だいまつ【松明】だいめん【対面】だくさん【沢山】ぢくしょう【畜生】ぢょうちん【提灯】
 づうよう【通用】づくしょう【畜生】でっぽう【鉄砲】どうろう【灯籠】ぱっさい【一】ぱっ
 とう【八倒・八倒】ばんこう【版行】ばんしょう【半鐘】ばんてん【半纏】びゃくしょう【百
 姓】びょうたん【瓢箪】びょうほう【兵法】ぶうたい【風袋】ぶくちゅう【腹中】ほういん【法
 印】ほうこう【奉公】ほうそう【庖瘡】ほうちょう【包丁・庖丁】ほうにん【法忍】ほうもん
 【法門】ほうりん【法輪】ほうこうにん【奉公人】〔以下5拍語〕ほうしょがみ【奉書紙】

b 動詞 32 語

がく・れる【隠】がたま・る【固】がたら・う【語】がま・える【構】がらかす【一】ぐくも・
 る【裏】ぐさ・れる【腐】ぐらが・る【暗】ぐらわす【食】ぐらわせ【狂】ごた・える【堪】
 ごわいろ【声色】ぞうろう【候】だお・れる【倒】ぢらかす【散】づかま・る【掴】づくら・
 う【作】づくろ・う【繕】づくろ・う【繕】づらぬ・く【貫】どしよ・る【年寄】ばから・う【量】
 ばく・れる【一】ばし・れる【走】ばたか・る【開】ばちか・る【開】ばな・れる【離】びた・
 れる【浸】びちら・く【一】びらか・す【一】ぶきだ・つ【吹立】ぶくれる【脹・膨】ほう・
 ける【惚・呆】づかま・える【掴】

c 形容詞 33 語

がしこ・い【賢】がなしけ【悲】ぎたな・い【汚】ぐるし・い【苦】ぐわし・い【芳・香・馨】
 ざまし・い【覚】ざみし・い【寂】ざむし・い【寂・心淋】じらし・い【著】じるし・い【著】
 ずくな・し【少】ずっぱ・い【酸】ぜわし・い【忙】だかし・い【高】ちっちゃい【小】づかわ・
 し【付】づけな・し【付無】づまし・い【詰】づわら・し【一】ばしか・い【捷】ばしこ・い
 【捷・敏】ばらし・い【晴】びすし・い【・喧】びらたい【平】ほった・い【一】〔以下5拍語〕
 ぐるおし・い【狂】ぐるわし・い【狂】ごこましい【一】じおらし・い【一】ぜわしな・い【忙】
 づかわし・い【遣】ばしっこ・い【敏】ばしっこい【一】〔以下6拍語〕ぎたならしい【汚】

形容詞は活用語尾に「-い」「-しい」を含むために多拍語となっている。いわば引き延ばされた語形であり、見かけ上の多拍語であるともいえる。よって形容詞という品詞性が多拍語の連濁の原因とは考えられない。

d その他 2 語

じっかり【確】ちょっこり【一】

後部成素1～3拍語ではおそらく名詞の割合が相当高くなると考えられる。4拍語以上では相対的に漢語・動詞・形容詞の割合が高いということになる。漢語の割合が高いのは上述のと

おり馴染み度の高い和語化した語を多く含んでいるためと考えられる。

4.3 ライマンの法則に違反する語

『日国』見出し語の語境界表示 (ハイフン = 「 - 」) によるとライマンの法則の違例となる語は以下に示す 8 語である。

あら - ぶきだ・つ 【荒吹立】
 お - がさがけ 【小笠懸】
 おお - ぐろばな 【-】
 かん - ばかりごと 【神謀】
 こ - がさじるし 【小笠標】
 て - びらがね 【手平金】
 の - だわごと 【野戯言】
 いろ - ほうしょがみ 【色奉書紙】

これらの語は本来の語境界を誤ることによって生じた「見せかけの違例」であると考えられる。たとえば「いろ - ほうしょがみ」の省略形に「いろ - ほうしょ」があり、そのため本来は連濁しないはずの「いろ + ほうしょがみ」が連濁形をとることになったのではなかろうか。詳しい考察は別稿に譲りたい。

4.4 右枝別れ語構造の連濁語

以下に示す 66 語は 3 語からなる複合語で、非連濁形をとるのが一般的である右枝分かれ語構造であるにもかかわらず連濁している語である。

がいのもの【買物】がおよせ【顔寄】がきいろ【柿色】がけもの【掛物】がさがけ【笠懸】
 がたこう【形鋼・型鋼】がなもの【金物】がねもち【金持】がみさま【神様】がみしも【上下】
 がみそり【剃刀】がみなり【雷】がみゆい【髪結】がやつり【蚊帳釣】がらうす【唐臼】
 がらくり【絡繰】がりまた【雁股】がりやす【刈安】がるかや【刈萱】がろうと【唐櫃】
 がわらけ【土器】ぎっつけ【切付】ぎもいり【肝煎】ぎりまい【切米】ぎりもの【着物】
 ぎるもの【着物】ぎんたま【鞆丸・金玉】ぐちなわ【蛇】ぐちまい【升口米】ぐろばな【-】
 ごけむし【苔虫】ごわいろ【声色】ざかしお【酒塩】ざやまき【鞆巻】じいたけ【椎茸】じゅうとめ【姑】
 じりうと【知人】じるうと【知人】ずいもの【吸物】だかのは【世鷹羽】だてあみ【建網】
 だてもの【立者】だねせん【種銭】だめいき【溜息】づっぽう【筒袍】でならい【手習】
 どしより【年寄】ばきもの【履物】ばれもの【腫物】びきあみ【引網・曳網】
 びやしる【冷汁】ぶろしき【風呂敷】ほねおり【骨折】〔以下 5 拍語〕がさじるし【笠標】
 がねもうけ【金儲】づまもよう【褌模様】ばかりごと【謀】ほうしょがみ【奉書紙】

これらの語の中には複合が強まり、複合以前の語の意味がまったくなくなったり、弱まったりしたものもある。これらの語が二語から成る複合語であるとの意識があるかについて

は個人差がかなりあると推測されるが、一語意識が生じている場合は右枝条件 (Right Branch Condition) を満たして連濁したと解釈できよう。

また、上記連濁語の多くは右枝分かれ (A [BC]) の語構造だが、実在語として左枝分 - 17 - かれ構造の語 ([AB] C) が存在しないために連濁形を取ることが可能となったと考えられる。たとえば「たで - びやしる (蓼冷汁)」は「たでびや - しる」が実在せず、また今後も生まれる可能性が低い (『日葡辞書』には Fiyaxiru とあり、「たでびやしる」は「たで」+「ひやしる」の複合で通常の連濁形と考えられる。『日国』には採録されていないが『日葡辞書』には「もずくびやしる」という連濁語もある)。「おお - ぶろしき (大風呂敷)」の場合「おおぶろ (大風呂)」は実在するが「おおぶろ - じき」(大風呂を敷き詰めること) は現実には起こりがたいことである。これに対して Otsu (1980) で示された「ぬりばし - いれ」「ぬり - はしいれ」のように、すでに左枝分かれ構造の語が実在したり、実在の可能性が十分にあるような場合は右枝分かれ構造の語は非連濁形を取る。それは連濁することにより両者が同形になり、そのことは両者の意味の区別を困難にするばかりではなく、右枝分かれ構造の語のもつ本来的な意味が失われることになるからだろう。

5. おわりに

多拍語を後部要素とする語についてはまだ検討すべきことが多いが、稀少例である実際の連濁語に基づいて考察した結果、以下のことが明らかになった。

- (1) 5拍語・6拍語の連濁語はほとんどごく少数の形容詞に限られる。
- (2) 4拍語の連濁語数は1～3拍語と比較して圧倒的に少数であるものの、『日国』では1328語の連濁語を収載する。
- (3) 4拍語では右枝条件を満たさない(つまり右枝分かれの語構造をもつ)連濁語が64語存在する。
- (4) 4拍語では漢語の連濁語が67語存在する。
- (5) 4拍語の連濁語は総じて「馴染み度」の高い語である。
- (6) 『日国』見出し語の語境界表示(ハイフン=「-」)によるとライマンの法則の違例となる語が8語あるが、それらは本来の語境界を誤ることによって生じた見せかけの違例であると考えられる。

多拍語が通常連濁しないのはライマンの法則に抵触する、右枝分かれ語構造である、漢語である、等々の理由によると推測される。しかし『日国』には4拍語を中心にそれでもなお連濁する語が多数収載されており、上記の結論を導くことが可能となった。小論において提示した多拍語の連濁語は、大規模国語辞典に収載されたいわば基本的な語彙である。多拍語を後部要素とする連濁語の考察のためにさらに多くのデータが必要であるとすれば、たとえば動植物名や「臨時一語」的な語から追加するということになるだろう。『日国』は「もずく - びやしる (水

雲冷汁)」を採録していないだけでなく、「るり - ほしかみきり (瑠璃星天牛)」〔右枝分かれ〕と「きぼし - かみきり (黄星天牛)」〔左枝分かれ〕 (大野和敏氏の御教示による) などの興味深い例を採録していないのである。

文献

鈴木豊 (2005) 「ライマンの法則の例外について - 連濁形「-バシゴ (梯子)」を後部成素とする複合語を中心に -」, 『文京学院大学外国語学部文京学院短期大学紀要』 4, 249-265, 文京学院大学総合研究所

戸田綾子 (1988) 「和語の非連濁規則と連濁傾向 - 『日葡辞書』と『和英語林集成』から -」, 『同志社国文学』 30, 1-17, 同志社大学国文学会

Yukio Otsu (1980) Some Aspects of Rendaku in Japanese and Related Problems, A. Farmer and Y. Otsu (eds.), Theoretical Issues in Japanese Linguistics (MIT Working Papers in Linguistics 2), Department of Linguistics and Philosophy Cambridge Massachusetts, 207-227

成稿に先立ち国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本語レキシコン - 連濁辞典の編纂」研究発表会 (2011 年 10 月 1 日於国立国語研究所) において小論と同一題目で発表を行ない、多くの貴重なご意見を賜りました。ここに記してお礼申し上げます。

(2011.10.11 受稿, 2011.11.18 受理)